

ドキドキ IZUCHU図書館

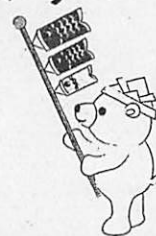
和泉中学校図書館 第64号 2019年4月発行

新緑の候、みどいっぱいの面白い本

平成最後の図書日より 令和でもよろしく!



入学・進級おめでとう!
今年度も読書や学習に
図書室の本を
役立てましょう!



図書室キャラクター どくしょん



『プラントハンター 命を懸けて花を追う』 西島清順・著
植物にまつわるこんな職業もあった!

しにせの植木問屋の5代目である西島さん。世界中を回って注文の品を手に入れたり、新たな品種を探し回る体験記。デパートから依頼を受けて季節はずれの花を咲かせたり、海外から珍しい植物を運んでくる時の苦労話など、植物にまつわる面白いエピソードが語られている。自分の職業に情熱と誇りを持っている姿にも胸をうたれる。



『そらみみ植物園』 西島清順・著
プラントハンター西島さんが世界の面白い植物を紹介している楽しい本
傷つくと血を流すドラゴンブラッドツリー、地面から引き抜こうとすると悲鳴をあげると言われるマンダレイク (ハリーポッターにでてきた?) トゲなしの栗、ヤギが登るアルガンツリー、ライオンを死に追いつめるライオンゴロシ。ヒマワリの新品種ヒマワル。西島さんの文章がとても愉快で、クスツとしながらスラスラ読める。イラストも可愛くて素敵。



『はじめてのインドアグリーン』
グリーンを選び方・楽しみ方・飾り方・お手入れの方法など
緑のある生活ってきもちいい!



『かむさり 神去なあなあ日常』 三浦しをん・著

都会育ちの若者が林業の世界に飛び込んでいったら? 林業っておもしろ〜!

そこはケータイの電波も届かないほどの田舎。使ったこともないチェーンソー片手におそろおそろ高い木に登っていくと、はるかかなたまで遠くが見渡せ、心にしみいるような木の香りに包まれる。先輩にビシビシしごかれながらも、次第に林業や自然の中の生活を好きになっていく姿が描かれている。

日本古来の自然の神さまをうやまいながら暮らす村の生活も体感できる楽しい物語。2010年本屋大賞ノミネート作品。映画化もされました (映画名: ウッドジョブ)



『花粉症のない未来のために』

え? 花粉のない杉なんてあるの?
花粉を持たないスギを発見し、そこから「無花粉スギ」の生産をするために尽力している斉藤さんを追ったノンフィクション。

偶然発見された1本の無花粉スギから始まった研究は、7万枚ものプレパラートを調べるとい気が遠くなるような地道な作業の積み重ねだった! スギ花粉症で苦しむ人が多い今、早くこの杉が普及してほしいものだが、現代の林業のありかたについても考えさせられる。

文字も大きくとても読みやすい! (地味な表紙だからあまり読んでもらえない本だけど、内容はとってもいいので、もっと読んでもらいたいな~)



『ノートルダムの鐘』

先日、火災のあったノートルダム大聖堂が舞台
「ノートルダムの鐘」はディズニーアニメのタイトルで、本当の題名は「パリのノートルダム」。(ヴィクトル・ユゴー作) パリの中心にそびえ立つノートルダム大聖堂。その鐘つき男として暮らすカジモド。彼は容姿こそ醜いが、優しく純粋な心を持つ青年だった。カジモドは大聖堂の外に出ることを決して許されなかったのだが、ある日、大聖堂を抜け出してジプシーの美しい踊り子エスメラルダに出会い、ひと目ぼれする。その出会いがカジモドの運命を変えていくのだった。



トピックス!

数々のベストセラーが生まれ出された平成。その中で時代を代表し、今でも皆さんにおススメできる作品を紹介しましょう。(どの本も図書室にあります)

平成に生まれた懐かしのベストセラー本!

平成

平成

平成

平成

みなさんが生まれる前

平成 6年(1994年)

くらももこ・著

『もものかんづめ』

「ちびまる子ちゃん」の著者のエッセイ集。

平凡な日常がさくらさんの目を通すと、こんなにもおもしろくなる。昨年、亡くなられたさくらさん。

マンガもエッセイもまさに平成に花開いた作品。



平成 11年(1999年)

乙武洋匡・著

『五体不満足』

歴代売り上げ第2位の580万部!当時の小中学生の読書感想文の多くがこれでした

両手、両足が生まれつきないという障害を持ちながら、自身が障害者である意識せず育てていった乙武さん。彼が生まれてから大学で大活躍

するまでを自叙伝の形で描いている作品。乙武さんの明るく、前向きで元気な姿が印象的。



平成 12年(2000年)

J.K.ローリング・著

『ハリー Potter と賢者の石』

70以上の言語で翻訳され、発行部数はシリーズ全体で4億5000万部以上!史上もっとも売れたシリーズ本。

魔法使いの少年ハリーの魔法学校での生活や、闇の魔法使いヴォルデモートとの因縁の戦いを描いた物語。この本がきっかけに、一大ファンタジーブームが巻き起こった。当時の中学生たちはファンタジー本をとてよく読んでいたよ。



平成 11年(1999年)

大平光代・著

『だからあなたも生きぬいて』

壮絶人生の後の彼女の頑張りに日本中が驚いた!

中学でいじめにあい、自殺未遂。そこからの転落の人生。暴走族→極道の妻へ。もがき苦しんだ末に心機一転の猛勉強。そして、中卒で司法試験に一発合格して弁護士に。

やればできるということに日本中が感動した本。



平成 15年(2003年)

養老孟司・著

『バカの壁』

人間同士が理解しあうのは根本的に不可能である。理解できない相手を、人は互いにバカだと思うのであ〜る。

東大名誉教授であった養老孟司氏によると、人は結局、自分の脳に入ることしか理解できないのだとか。この刺激的なタイトルは新語・流行語大賞にもなった。



みなさんが生まれた頃

平成 19年(2007年)

田村裕・著

『ホームレス中学生』

お笑い芸人「麒麟」の田村さんのすさまじい実体験。だけどなんだか心温まり、くすっと笑えてしまうから不思議。

1学期の終業式が終わって家にもどった裕が目にしたものは、自宅のすべての荷物が差し押さえられている場面だった。ポーゼンとする兄妹たちの前で父親が言った。「今日で家族は解散します」その日から家族はバラバラになり、裕はホームレスとして公園で生活することに。



みなさんが小学校入学の頃

平成 20年(2008年)

水野敬也・著

『夢をかなえるゾウ』

靴を磨く/会った人を笑わせる/トイレ掃除をする...こんなことを毎日実行してみ。人生が変わるで。

ごく平凡なサラリーマンが、ゾウの姿をした関西弁の神様「ガネーシャ」の指南によって自らの人生を変えていく物語。人生を成功に導くための方法を物語仕立てで教えてくれる一冊。



平成 23年(2011年)

長谷部誠・著

『心を整える 勝利をたくり寄せるための56の習慣』

心は鍛えるものではなく、「整える」もの。長谷部はチームで干されても腐らずにレギュラーを奪い返した。ワールドカップ予選では

主将としてチームを束ね、本選へのキップをつかんだ。ワールドカップで盛り上がった平成時代を代表する一冊ともいえる。



平成 30年(2018年)

昨年の大ヒット

『漫画 君たちはどう生きるか』

吉野源三郎・原作/羽賀翔一・画

子どもたちに向けて書かれた80年前の名著がマンガになって再登場し、ベストセラーに!

勇気、いじめ、貧困、格差、教養...昔も今も変わらない人生のテーマに真剣に向き合う主人公のコベル君とおじさん。二人の姿勢には、生き方の指針となる言葉が数多く示されている。

